

事後評価書

事業名	道瀬地区海岸 環境整備事業	事業区分	海岸事業 (国土交通省)	室名	港湾・海岸室
事業概要	工期 (下段当初)	平成6年～平成17年	全体事業費 (下段当初)	1,146百万円 (負担率: 国10/30: 県17/30: 市町3/30)	
		平成6年～平成18年		1,172百万円 (負担率: 国10/30: 県17/30: 市町3/30)	
事業目的及び内容		<p>事業目的: 道瀬地区海岸は、紀北町紀伊長島区の南西部にあり、吉野熊野国立公園内に位置する自然環境に恵まれた海岸です。当海岸の背後には人家の他、古くから海水浴や釣り等で親しまれていることから民宿などの宿泊施設もあり、また緊急輸送道路の国道42号、JR紀勢本線が通っています。 高潮・高波等の異常気象時における背後地の安全性を確保しつつ、景観及び利便性を考慮して、快適な海岸環境を整備するため、突堤、養浜を組み合わせた面的防護方式による施設整備を行いました。</p> <p>事業内容: 突堤工 2基 (北側 L=85m、南側 L=98m) 養浜工 78,350m³ 潜堤工 1基 (L=228m) 排水工 L=121m</p> <p>事業経緯: 平成 6年度 事業着手 平成 10年度 突堤工完成 平成 11年度 砂止潜堤完成 平成 17年度 事業完了</p>			
1・事業の効果		<p>1-1 事業の効果 平成17年度の事業完了後、多数の台風が上陸ないし接近したものの、背後の人家等に被害は発生せず防護機能を発揮することができました。</p> <p>1-2 事業効果の評価 ・平成22年時点でB/Cは、2.21です。</p>			
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>2-1 事業実施による環境面への配慮 当海岸は恵まれた自然環境にあり、また海水浴や釣りなどの利用者が多いことから、海岸に設置した突堤や排水路は、来訪者の利用や自然景観との調和を考慮し、自然石を用いて整備しました。</p>			
3・事業を巡る社会経済情勢等の変化		<p>3-1 背後の防護対象の変化 道瀬地区の世帯数は事業完了後の平成17年以降変化はなく、依然として防護の必要性は高いものと考えております。</p> <p style="text-align: center;">道瀬地区世帯数の変化 H6 87世帯 → H17 77世帯(▲11.5%) → H22 77世帯</p> <p>3-2 周辺状況の変化 ・道瀬地区海岸周辺には平成16年に世界遺産に登録された熊野古道があり、当海岸の海岸堤防は散策ルートの一部として多くの散策者に利用されています。 ・道瀬地区海岸周辺では高速道路の整備が進められており、平成24年度には約5km離れた箇所に紀勢自動車道路の紀伊長島インターが開通する予定です。当海岸の来訪者のほとんどが自動車を利用されており、高速道路の延伸により移動時間が短縮されるため、海岸を訪れる方の増加が期待できます。</p>			

04・県民の意見

1. アンケートの概要

- ・平成22年9月に道瀬地区海岸周辺の住民（77世帯）に対してアンケートを実施。
（回答数58 回答率75%）
- ・平成22年7月末から8月上旬の5日間にかけて道瀬地区海岸の利用者（69組）に対して聞き取り調査を実施。

2. 工事の目的の認知度

工事の目的について52%の方が認知しておりましたが、40%の方がご存じありませんでした。

3. 安全面に関する評価

「満足」＋「どちらかといえば満足」が57%あり、「不満」＋「どちらかといえば不満」の15%を上回る結果となりました。

4. 海岸環境・環境保全に関する満足度

「満足」＋「どちらかといえば満足」が45%あり、「不満」＋「どちらかといえば不満」の10%を上回る結果となりました。

5. 海岸利用者の満足度

「満足」＋「どちらかといえば満足」が97%あり、「どちらかといえば不満」の3%を上回る結果となりました。

6. 事業全体の満足度

「満足」＋「どちらかといえば満足」が57%あり、「不満」＋「どちらかといえば不満」の9%を上回る結果となりました。

5・今後の課題等

5-1 事業実施上の課題・問題点

- ・津波への対応
- ・工事内容などの周知不足

5-2 今後実施する事業への留意事項

- ・津波に対する避難啓発の推進
- ・避難時間を確保するため陸間動力化の推進
- ・計画段階で、地区住民に対して事業の目的や内容等について十分説明し、地域の意見を反映していく。